

講義コード		科目区分	基礎教育科目
(フリガナ)	リンリガク	(フリガナ)	タカハシ ノリオ
授業科目名	倫理学	担当教員名	高橋 憲夫
英文授業科目名	Ethics, Moral Philosophy		
基準年次(開講期)	1年(後期)	履修形態	選択
曜日/ 時限/ 講義室	金 1 限 / 浅草		
授業の方法	講義	授業の方法 (詳細情報)	講義
単位	2	週時間	2
授業のキーワード	モラル、倫理についての深い思考、洞察。		
授業概要・目的	前半は、道徳、倫理の本質を学問的に追究する倫理学の学問的特質と意義について概括します。後半は、私たちの暮らしに身近な倫理的問題を取りあげ、検討を加えます。		
到達度評価の評価項目	知識を蓄えることは大切ですが、それだけでは評価しません。その得た知識を使って、倫理学の問題をどこまで深く考えたかという点が評価のポイントです。		
授 業 計 画			
第 1 回	ガイダンス：倫理学とは何か。その課題と方法。		
第 2 回	倫理学説史概観 その 1. 古典古代ギリシア		
第 3 回	その 2. 中世キリスト教世界の倫理観		
第 4 回	その 3. 宗教改革とルネサンス		
第 5 回	その 4. 近代的市民的自我意識と倫理観		
第 6 回	その 5. ヘーゲルから現代哲学へ		
第 7 回	その 6. 実存哲学と不安		
第 8 回	その 7. マルクス主義の倫理観		
第 9 回	古代日本人の倫理観		
第 10 回	中世、近世の日本人と中国・儒教の影響		
第 11 回	現代社会の問題と倫理学		
第 12 回	応用倫理学 その 1. 企業倫理、ビジネス倫理		
第 13 回	応用倫理学 その 2. 環境倫理		
第 14 回	応用倫理学 その 3. 生命倫理		
第 15 回	まとめ：社会と倫理思想の関係をよく理解した上で、現代日本人の倫理的刷新について、その可能性を探りたい。		
教科書・参考書等	教科書は指定しない。参考文献は、授業中に適宜、紹介する。		
授業で使用する機器等	P.C. O.H.P.		
予習・復習へのアドバイス	自分の信仰している宗教の倫理的側面については、事前に調べておくこと。		
履修上の注意・受講条件等	「倫理学」という科目は必修(必須)科目ではありません。勉強したい学生のみ履修すること。		
成績評価の基準等	期末テストの評価 80%。授業中の小テスト 20%。		
メッセージ	人間として、よりよい人間形成を目指す人のみ倫理学を履修してほしい。		
オフィスアワー	講義担当日の最初と最後の担当科目の前後一時間は、研究室に居ます。但し、5限は例外で、退室、帰宅します。		
その他			